

に多岐にわたる全力を注ぎ、多くの人に受け入れられて、金も手に入り、この仕事を取り締まる広瀬君を湘南の仲間へ応援しよう、宮崎県庁君が危ない代表にしろ、12月9日銀座、ススカキヤクラブ32回有志が集まって助成金を開いた。担任だった北村先生及び先輩のケムテ参加に、出席者が約50名、トニニコト型製約25台、校歌、エー、轟動のこぼの飛交う活に満ちた壮行会であった。

(32回 林健代 記)

日豪の絆
八巻悌次(11回)

ガーデンアイランドの基地内の特殊潜航艇前に立つ筆者。

私は海軍兵学校卒業後の実習も終え、昭和十六年春四月、海軍少尉に任ぜられると同時に、特殊潜航艇(特潜)の搭乗員となる教育訓練を受けることとなった。これも海兵同期生約二百九十名中の僅か四名であった。

特潜は魚雷を二本発射できる超小型潜水艇で、極めて嚴重な秘密の下に開発間もない新兵器で、操縦性能は安全面から見るとまだ極めて不備なものであった。

秋の訪れと共に夢想だにしかかった太平洋戦争突入の気配が感じられるようになった。そして十二月八日の真珠湾奇襲攻撃に特潜五隻が第一次特別攻撃隊として参加することとなった。

参加の艇は大型潜水艇に搭載して真珠湾口まで運び、そこで母潜から潜航発進して、港内に進入して魚雷攻撃を行なうのである。然しながら港外で待機する母潜の許に選った特潜は一隻もなかった。その後も戦争は、心ある国民の願いとは反対に拡大の一途をたどった。

昭和十七年春になると、第二次特別攻撃隊が編成され、そのうちの四隻は、シドニー港を奇襲攻撃することとなり、私もその一隻の艇長として参加することとなった。南太平洋トラック島前進基地で、母潜の甲板に搭載された艇と共にシド

ニーに向う途上、五月十八日夜半、母潜の浮上と共に艇の整備にとりかかると間もなく不幸にも艇内にたまっていた水素ガスを引火爆発事故が発生して、私とベアを組む下士官は暗黒の海上に吹き飛ばされて死亡し、私も火傷を負い、艇は破損のため、攻撃の断念を余儀なくされた。僚艇の三隻は、予定通り五月三十一日夜半港内に進入、水中からの攻撃を敢行したが、待機する母潜のもとには、遂に一隻も還らなかった。

豪州海軍は、それから数日後に港内の海底に沈んでいた二隻の艇を発見して、四名の遺体と共に揚収した。さらに戦争の最中にもかかわらず、敵国軍人である彼等の勇気を称えて海軍葬を執行し、国民もこれを許し、遺骨を戦時交換船に託して日本に送り還したのである。

戦後二隻の艇体は首都キャンベラの戦争記念館、及びシドニー海軍基地に、展示されている。資料館ではこの特潜を含めた内外多数の展示品に、敵味方の区別なくその勇気に対する公正な解説が加えられている。昨年の豪州建国二百年祭記念行事の一環として、シドニー豪海軍基地内に、特潜攻撃による日豪両国の戦没者を偲ぶブランク(額)建立が計画され昨秋完成し

た。ブランク完成を前にして日豪の間係者多数参列の下で豪州国民の一部でこれに敵意に行なわれた。私も反対の声がおこったが、これに列席し感慨一人のものがあった。この行事の模様はテレビでその除幕式が、昨年9月10日豪州海軍主催により、

あしがらやまのめおとすえものし
足柄山乃夫婦陶芸師

湘南紳士録(27)

石志良 光 (35回)

エミコ (41回)

荒間蒼海